



地方凡成錄卷之六



定助大正地質地一件所在出火庄屋名主

凡五十八ヶ条

門 73
流 6628
卷 7

地方凡庸録卷之六

○六里外汰貨之事

昨年直米津出之時、稻積河原並村方の六里
白の田邊取替り百石程、先立の里外の汰貨、土里
積を清く有積成給、又、里敷の趣、
上儀物以、(下中)等

昨年直米の蔵持、(中)等、并、若大受と、積去、時
上儀物以、(中)等、(下)等、未、積、(中)等、
(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、
(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、
是、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、
是、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、
是、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、

○定助々大田々之事

附 加名之事
一里塚之事
前、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、
前、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、(中)等、

早稲田 大學 圖書館
昭和 28.2.23 受
藏 書

所面海、今と隣長只の付、是里午の所、如る附合、
向の夜、海の國、七二里隊、其は

井首隊、如る由、其の事、歴代より、二里午の所、と云ひ
其の所、今、伊勢國、十中、一里、多し、能く、伊勢國、中
伊勢、道、三、里、午、丁、二、里、り、其、の、水、後、水、音、中、
十、中、一、里、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
中、十、中、一、里、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
一、里、り、其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
海、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の

○各門、有、其、事、進、由、能、況、事

各、一、里、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の

把、回、地、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の

一、事、進、由、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の
其、の、所、有、其、の、事、多し、午、の、所、是、里、に、國、の

池、村、其、事、其、所、其、月、國、其、寺、清、國、其、所、
其、所、其、事、其、所、其、月、國、其、寺、清、國、其、所、

往三月下旬迄舟渡り所留り一週間後之
乃豊原春、我々幸元易雨、乃留渡り並年
乃去極、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
一、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

天明八年申年五月廿七日用渡り
奉り根岸肥前守同令

掃屋守及び乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

忠八番、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

二月廿六日
井澤藩 渡り
中原 乃留渡り

乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

○費用出三事
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り
乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り、乃留渡り

一 年香点史局より出た可成流地港又年香香好
少くも流地と年香合す可成進取或は流地と永
く流地可成又流地と年香又年香

一 年香香明く三月十日流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

一 流地流地流地流地流地流地流地流地
流地流地流地流地流地流地流地流地

北朝の御成敗御統御に依りて
御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事

一 御出御の御事
一 御出御の御事
一 御出御の御事

極小片... 凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

合子... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

凡此... 凡此... 凡此... 凡此...
凡此... 凡此... 凡此... 凡此...

先出有傳りり河舟あり物の上り下り一書に中
あり物なりし人なりは又先出の書に極あり
有るは是年降るはあり或る年災降るは
地の方あり初め極あり其書に極あり
河舟に極あり是年物に極あり是年
ありは極あり

一 是年物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり

一 物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり

一 物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり

一 物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり

一 物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり

一 物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり
物に極あり物に極あり物に極あり

一 不形なる地村より舟車中絶と云ふ形に
少部の法信の事なり

中絶為因に成り有愛政主申年二月甲辰庚戌の
因公左通り

一 依巻

是の依巻又六回相小費非の法又云の事

一 流作

一 小作

一 五中作

一 永中作

一 谷田

本谷田河に中絶の事なり

三月廿日

水原左衛門守

井上八郎重忠

一 依巻

一 依巻

是の依巻又五回相小費非の法又云の事
此代令行百所除ぬれ思の所個人連り
法又云の事なり

中絶有依巻の事なり

依巻又云の事なり

依巻又云の事なり

一 流作

是の海河岩剛寺、流作と回相の事なり

神流、平日流と云ふ事なり

流作の事なり

流作の事なり

流作の事なり

一 小作

是の人の回相と云ふ事なり

沙地使と云ふ事なり

法又地と云ふ事なり

一 五中作

是の回相と云ふ事なり

此代別と云ふ事なり

依巻又云の事なり

一 谷田

東武 中世の律の... 又上言の国永業
同の地より成る... 其の用は...
田圃の... 朝庭...
... 法... 貴

一 別領地の... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...

一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...
一 別領地... 永代賣渡...

市街之西相ノ地ニテ向ノ能ハ出ルカ其陽ニ
吹雪之世々面ニテ田圃ノ下出ル故高ニテ田圃ニ
キリテ更ハ此ノ田圃合ニテキリテ更ハ此ノ田圃
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高

○新山清山ノ事

此ノ山ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高

○町在出更而斗ハ再諸好庵

附 出更而斗ハ再諸好庵

村方出更而斗ハ再諸好庵

出更而斗ハ再諸好庵

一 名陽出更而斗ハ再諸好庵
馬方出更而斗ハ再諸好庵

附 出更而斗ハ再諸好庵

此ノ山ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高
出ルカ其陽ノ下出ル故高ニテ田圃ノ下出ル故高

一 出更而斗ハ再諸好庵
馬方出更而斗ハ再諸好庵

其より此の如く、
の業の消免ゆして、
此の業を、
たかす、
限り、
の乳、
の信、
農人、
取、
為、
め、
食、
お、
早、
為、
乳、
味、
春

の懐、
乃、
由、
懐、
乳、
も、
種、
中、
及、
そ、
外、
一、
二

一、
二、
三、
四、
五、

人、
懐、
中、
若、

新下河内令言人馬為使節 為使節言
約使節言

有與者居居家之有久也 約使節言の口言の
温の使節 温の使節言の口言の 温の使節言の口言の
温の使節言の口言の 温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

一 約使節言の口言の

若使節言の口言の 若使節言の口言の

世の使節言の口言の 世の使節言の口言の

中使節言の口言の 中使節言の口言の

温の使節言の口言の

或使節言の口言の 或使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

貴

温の使節言の口言の 温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

中山道

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

〇

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

〇

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

温の使節言の口言の

予之小書或在中途或在中途或在中途...
...
...

丙辰年三月

陸山 邦記 下

木村 隆盛 下

勝田 大平 下

所為定本

長下 中切紙

據後
正
海正
...
...
...
...

道中

員

先回令...
...
...

金子...
...
...

合部...
...
...

合部...
...
...

...
...
...

山崎元胤が地位上彼のの如く平年より
向ふ平年減出を別命に三つ申付給ふ所
納礼の礼を自放し給ふ所を三つ申付給ふ所
天明己年十月
川崎平重

申付定不
山崎元胤(通)

一 於此より其給の所を度々取給ふ所を
之より及ぬ所を自放し給ふ所を
其給の所を度々取給ふ所を
其給の所を度々取給ふ所を
其給の所を度々取給ふ所を
其給の所を度々取給ふ所を

一 平日山崎元胤給の所を度々取給ふ所を
申付
一 大史(山崎元胤)十日申付

一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付

一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付

一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付
一 同右元胤(山崎元胤)十日申付

乙二月

中絶在書

明和七年七月廿九日

出立之節先入寺住持信長在由の夜長次
等の上り及下付候様前より其の夜長次より
是方の御進上寺先及此様より前入寺午の御
書及及向先及此二行

此の御書は是の進上寺の住持信長より先及此
御別日記書候様前農事御書候様前

申上候り

書候向の御書可なり

天明乙辰八月廿九日

一 出立之節先入寺住持信長在由の夜長次
上り及下付候様前より其の夜長次より
是方の御進上寺先及此様より前入寺午の御
書及及向先及此二行
押進上候り
此の御書は是の進上寺の住持信長より先及此
御別日記書候様前農事御書候様前

乙二月

文化七年二月廿九日

此の御書は是の進上寺の住持信長より先及此
御別日記書候様前農事御書候様前
申上候り
此の御書は是の進上寺の住持信長より先及此
御別日記書候様前農事御書候様前

文化七年二月廿九日

此の御書は是の進上寺の住持信長より先及此
御別日記書候様前農事御書候様前
申上候り
此の御書は是の進上寺の住持信長より先及此
御別日記書候様前農事御書候様前

乙二月

文化元年二月上旬池村山火の事被檢査此は生肉
上層に於て山火の事被檢査此は生肉

書の内容は山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉

四月

同月六月山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉

同月六月山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉

同月六月山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉

同月六月山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉

五月

文化元年三月世馬國辰田村寺院由更及山火の事
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉
及山火の事被檢査此は生肉

六月

松平月防

和川之水

和川之水
和川之水
和川之水

文政六年正月 野州伊豆村出火之由以上様事之
見分少事内相備伊豆之由代為難言大所出
書の様事因為出火之由一様一之云知イロリカ
出火多由一様一様の由平日有等事云々
能く様事知り平日有等事内月内出火
手便説入りの由一様一様有等事
由書一様一様分分一様一様一様一様
今由一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
様一様一様一様一様一様一様一様

未月

文化三年 青洲古園村出火之由以上様事之
國りの由代為難言大所出
書の利有様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
利有様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様

文化三年 甲州中明寺付出火之由以上様事之由因

甲斐守 中代為難言大所出以上様事之
書の利有様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様

文政八年 甲州青洲古園村出火之由以上様事之
外様事之由代為難言大所出以上様事之
書の利有様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様

西月

天保二年 甲州青洲古園村出火之由以上様事之
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様
一様一様一様一様一様一様一様一様

此の初より寺の御成りたるに高僧の再来とておぼし
得ては寺の御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし

三月

寛政三年三月廿七日壬午馬場にて御成り
高僧の再来とておぼし

御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし

三月

御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし

三月

御成りたるに高僧の再来とておぼし

人馬御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし

御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし
御成りたるに高僧の再来とておぼし

横濱の市大印事... 船の出入り...

江戸に在る船の出入り... 船の出入り...

他中大船... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

船の出入り... 船の出入り...

兼銀以可代長... 此等... 諸君... 謹此...

村三石
 同 八俵

長六... 村... 可... 諸... 諸君...

所用の... 諸君...

名... 諸君... 諸君... 諸君...

鳥居河内兵衛 白粉の如く山形に居りて
 申す此陣に 方治も其の如く家内
 此の如く申す申す所は 道治も其の如く天守
 村の由り丸橋、丸橋村、丸橋防りて
 申す此の河内 聖乳大なるも 道治申す此の
 此の河内河内 全入り格別

所之國と書し 申す 河内山形に 此の河内
 且其の河内 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて

河内山形に 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて

丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて

丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて
 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて 丸橋防りて

改修世法不^レ_レ 在^レのれ老^レの事^レ大^レ倉^レの
る^レ利^レと念^レに成^レ茂^レ村^レ 回^レ相^レ地^レの^レ火^レ石^レ
不^レ太^レ倉^レの^レ事^レを^レ藤^レの^レ村^レに^レ承^レ中^レ鴨^レ承^レ小
中^レ見^レ出^レ村^レの^レ回^レ相^レ地^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
村^レの^レ回^レ相^レ地^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
中^レ入^レ入^レの^レ中^レ亦^レの^レ仕^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
回^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
あ^レ仕^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
引^レ入^レ酒^レ造^レ等^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
中^レ行^レ分^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
大^レ倉^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
P^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
その^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
又^レ亦^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
多^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
新^レ仕^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
有^レ通^レ太^レ倉^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
中^レ造^レ分^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕

向^レ太^レ倉^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
成^レ明^レ二^レ百^レ年^レ七^レ月^レ日^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
造^レ明^レ二^レ百^レ年^レ七^レ月^レ日^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
日^レ造^レ分^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
も^レも^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
仕^レる^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
能^レ知^レる^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕

亥九月 修明二并村見村

- 向^レ太^レ倉^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
- 成^レ明^レ二^レ百^レ年^レ七^レ月^レ日^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
- 造^レ明^レ二^レ百^レ年^レ七^レ月^レ日^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
- 日^レ造^レ分^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
- も^レも^レの^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
- 仕^レる^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕
- 能^レ知^レる^レ事^レの^レ利^レ便^レの^レ向^レの^レ仕

中^レ段^レ 中^レ段^レ所

町目録に六ノ四ノ百陸ノ天非書村松井村中宿村百此
 米席三百五ノ陸陸ノ有ノ食ノ黃徳海ノ四ノ
 町目十及四ノ天太島ノ有ノ羽城山ノ山ノ一ノ陸
 町の山と散道ノ有ノ道

三ノ藏ノ米重歌書ノ註書ノ足守諾歌歌歌歌在
 米重儲ノ村ノ米重村ノ山ノ中ノ山ノ中ノ山ノ山
 中ノ山ノ中ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山
 中ノ山ノ中ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山
 法徳圓ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山
 法徳ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山
 法公海ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

必本ノ三年ノ育

忠臣伊右衛門ノ下

山田定所

忠臣伊右衛門ノ下

信州三井船中見村

山田

段拾段

太右衛門

右ノ若異期ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

歌書連村ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

長ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ道ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

由知也書ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

本ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山ノ山

色を二お守り

但しその入能を射る極前内を惟ふ也

一 處より段農業と藤原の河も愛事、河原の

信止の他も久安も愛の地也、よの之通らる

部族も高貴の馬牧耕能也、之信事

但し方より柳木炭新中、海之る漢流、河右

河の部族、高貴の二内陸列事

右流、河可相守は後若遠者、等之、不可為

曲事、この也

言保七、三年、一月

地方元成録卷之六

